

JA
OTOFUKE
GUIDE IN
FACILITIES

JAおとふけ施設ガイド
青果管理センター

長芋発泡緩衝材設備編



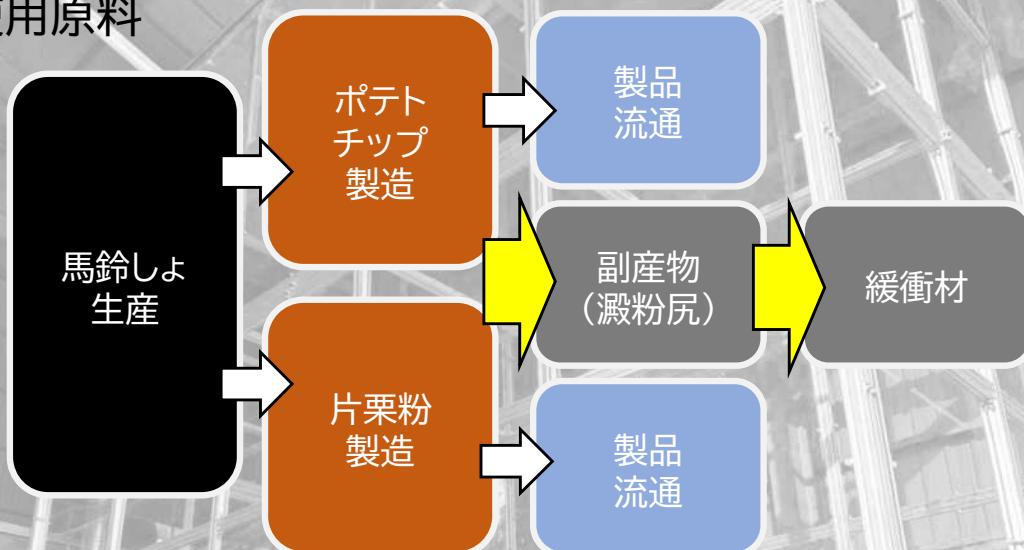
わたしたちは北国の四季を収穫します。

JA おとふけ

■令和6年度 地域づくり総合交付金(北海道)

項目	内 容
事業実施主体	音更町農業協同組合
名称	長芋発泡緩衝材製造設備
事業費	232,570千円
補助金額	93,100千円
製造能力	100kg/時(500ケース使用分)
緩衝材貯蔵可能量	114.1m ³ (\div 1.5日使用分)
施工管理	ホクレン農業協同組合連合会
施工業者	ナラサキ産業株式会社
緩衝材原料仕入先	ホクレン農業協同組合でん粉課 (土幌馬鈴薯施設運営協議会澱粉工場・東部十勝農産加工農業協同組合連合会澱粉工場他) 合同容器株式会社

■緩衝材使用原料



原料名	含有率
澱粉	54.9%
PP(ポリプロピレン)樹脂	40.0%
着色剤	0.1%
核剤	5.0%



■導入経過

▶長年、長芋の緩衝材はおが粉を用いてきましたが、近年の原木価格の上昇により選果経費の上昇を招いている一因となっていました。



▶JAおとふけでは2018年(平成30年)よりおが粉に替わる緩衝材試験を開始。
▶試験に当たり①原料調達が容易である②おが粉より経費が安価である③ユーザーに対しメリットを生む④おが粉と同等の保管能力を持つ事を条件にしました。

①原料調達

▶使用原料は北海道産馬鈴しょの副産物である「澱粉尻(デンブンジリ)」を使用。北海道十勝の主力品目である馬鈴しょを用いる事で永続的な原料調達を実現しました。

②おが粉より経費が安価

▶上記グラフで記載の通り、おが粉経費は10kg段ボール1箱当たり97.5円の経費が発生していますが、新緩衝材の経費は50.0円/箱となり、経費を抑える事で生産者収益を上昇させる事が出来ます。

▶発泡緩衝材は非常に軽量化されています。
そのため輸送効率は大幅に上昇し運賃削減に繋がります。

	1箱 使用量	1箱 皆掛重量	JRコンテナ 積載量
おが粉	3.5kg	14.0kg	360箱
発泡緩衝材	0.2kg	10.7kg	440箱

③ユーザーに対するメリット

▶おが粉も発泡緩衝材も「可燃ゴミ」となります。事業者が可燃ゴミを処分する場合、重量に対し料金設定がされています。当JAが出す緩衝材の量は年間で1,400t減少するため、ゴミ処理料も帯広市料金で試算すると23,000千円削減となります。これらの取り組みはSDGs12「つくる責任つかう責任」15「陸の豊かさを守ろう」の取り組みと言えます。

▶発泡緩衝材は人為的に灰色へ着色しています。
目的は誤飲を防ぐためです。発泡緩衝材のまま家庭まで届く事は稀な事ではあります BUT 最大限の注意を払い食べ物に見えない色にしています。



④おが粉と同等以上の保管能力

▶発泡緩衝材は過度な水分保持とならないため、切断面は適度にコルク化され変色を防ぎます。

【2024年台湾輸送試験(撮影:台湾)】

■着荷状態

■おが粉切断面

■発泡緩衝材切断面



【2025年熊本輸送試験(撮影:熊本県熊本市)】



■ JAおとふけ 青果管理センター

青果管理センターでは、長芋の他にも人参、南瓜、玉葱、長葱、アスパラガスの撰別も行っております。

また、JAおとふけ管内ではブロッコリー、ほうれん草などの野菜も生産されています。それぞれの季節で旬な野菜を、新鮮な状態で皆さまへお届けしております。



音更町農業協同組合

本所: 北海道河東郡音更町大通5丁目1番地
TEL.0155-42-2131 FAX.0155-42-2727
<https://www.ja-otofuke.jp>



JAおとふけ
ホームページ



YouTube
公式チャンネル